

梅の香漂う歴史と文化の街

茨城・水戸

徳川家ゆかりの地である水戸。
独自の学風「水戸学」が育まれ、幕末の時代に大きな影響を与えました。
2月下旬から3月下旬には咲き競う紅梅、白梅を堪能できます。



水と緑あふれる 千波湖のほとりに建つ 美術館

水戸駅南口からスタート。ここでは茨城県ゆかりの作家を中心に国内外の近代美術作品を展示しており、落ち着いた雰囲気の中で自由に美術とのふれあいを楽しむことができます。

3,000本の梅が 咲き競う偕楽園内

金沢・兼六園、岡山・後楽園とともに日本三大名園のひとつに数えられる偕楽園は、天保13年（1842）に水戸藩第9代藩主徳川斉昭公により造られました。偕楽園には、初夏のキリシマツツジや秋のハギなど四季折々の見所がありますが、なんといつでもこの時期の梅が有名で、全国から大勢の観光客が訪れています。約13haの敷地に約1,000種、3,000本の梅が植えられ、木には種名を記した札がついています。花の色や形、香りを比べ、お気に入りの梅を見つけたいですか？



▲横山大観などの作品を展示する茨城県近代美術館

※茨城県近代美術館
9時30分～17時
休館日…月曜日
(祝祭日の場合は開館し、翌日休館)
入場料…一般300円
高大学生230円
小中学生170円



▲徳川光圀公像の先にある、徳川斉昭公と慶喜公像

※好文亭
9時30分～16時
入館料…大人190円
小中学生100円

園内をゆつくり回したら、偕楽園前から路線バスで水戸駅に戻ります。

梅林を少しはずれたところにある柿葺の好文亭は、斉昭公自らが設計をした素剛優雅な建物で、もとは藩主の休憩所として建てられました。その名は梅の異名である「好花木」に由来し、3階の楽寿楼からは千波湖や淡く煙る梅林など周囲の眺望が楽しめます。

▲水戸武士の風格がただよう好文亭



アクセス：【電車】JR水戸駅下車

【車】常磐自動車道水戸I.C.から約20分

コース：JR水戸駅南口→(20分)→茨城県近代美術館
→(30分)→千波湖→(10分)→偕楽園

距離：約4km

所要時間：60分(歩行時間)

歩数の目安：6,000歩

下記のホームページで紅葉情報などをチェックしましょう。

観光のお問い合わせ 社団法人水戸観光協会
TEL 029-224-0441 <http://www.mitokoumon.com/>

ワンポイントアドバイス

●毎年2月下旬から3月下旬は「梅まつり」が開催され、水戸の梅大使が華を添えます。また、「梅まつり」期間中の土日祝日は偕楽園臨時駅が開設されます。上野・小山から水戸方面の列車のみが停車するので、臨時駅を利用する場合は、上記のウォーキングコースを逆にたどるとよいでしょう。